会津医療センターから こんにちは！

【１８】

麻酔科学講座
教授　村山　隆紀

『全身麻酔は必ず覚める』

会津医療センターでは毎年1,000件以上の全身麻酔を行っています。着任して４年、何らかの必要性があって鎮静を継続した患者さんを除き、これまで麻酔終了後に目覚めなかった患者さんはいません。

なぜなら、「全身麻酔は必ず覚めるもの」だからです。全身麻酔に使用する鎮静剤（眠っていただくために使う薬）は薬なので、体の機能が正常に保たれている限り、時間が経てば体の中で分解されたり、体外へ排泄されたりしてその効果を失っていきます。

細胞破壊を目的とした特殊な薬（抗がん剤や神経破壊薬）を除き、永続的に効果をもたらす薬はありません。一回の投与で永続的に効果のある薬は「薬」ではなく「毒」です。もちろん、全身麻酔で使う薬には効果が激烈なものが多く、使い方を間違えると「毒」と化す薬もあります。実際に「毒薬」指定されている薬もあります。しかし、正しく適切に使用している限り、いつかは必ず効果を失います。

ところが、患者さんに対する麻酔科術前診察の際、まれに「うちのおじいちゃんは全身麻酔から覚めることなく、そのまま亡くなりました」という話を聞きます。このような事態は「全身麻酔は必ず覚めるもの」という原則からはありえません。では、なぜこのような事態が起こるのでしょうか？

それは２つの原因が考えられます。１つは、何らかの必要性があって鎮静を継続している状態の中、死に至る状態に陥った場合です。非常に状態の悪い患者さんでまれに見られる事態で、体の安定を保つため鎮静を継続したが状態が悪くて回復できなかったーなどの場合です。もう1つは、麻酔や手術とは直接関係のない出来事が脳に突然生じた場合です。手術中の予期せぬ脳梗塞や脳出血などがこれに当たります。例えば、麻酔の効果は切れていても脳には傷害が残って意識が戻らないーなど極めてまれな場合です。

「全身麻酔後に目覚めないことはありえます」が、「全身麻酔が覚めないことはありません」が答えです。

今日もスッキリとした目覚めを求めて麻酔診療に励みます。呼んだら起きてくださいね。